

令和6年度 日高支部活動報告

1. 振り返って

日高管内学校体育研究会は、発足して5年目となります。まだまだ、十分な活動が出来ているとは言えませんが、「主体的・対話的で深い学びの体育授業づくり」～児童生徒一人一人が課題に対して「問題意識」をもち、「自分自身で判断し、行動できる」授業を目指す～のテーマのもと研究を進めています。

間違った体育の一つとして「しつけ偏重」の授業がまだ日高管内でも見られることから、そこを何とか打破しようと本研究会は活動を続けています。

会員数は11名と少ないですが、公開授業と教育局の講座、そして実技講習会の3つが一体となった公開研修会を中心に今後も活動を続けていきたいと考えています。

2. 令和6年度活動計画

日程	事項	場所	備考
4月16日(火)	会員募集連絡		
4月17日(土)	北海道学校体育研究連盟 定期総会	札幌	清水 早苗
5月31日(金)	日高管内学校体育研究会 総会	遠隔	
9月20日(金)	公開研修会 ・公開授業 ・教育局の講座 ・実技講習	新ひだか町立 高静小学校	授業者 堂下貴章 マット運動
10月18日(金)	北海道学校体育研究連盟 札幌大会	札幌	玉手 吉能 山本 荒木 清水
2月26日(水)	日高管内学校体育研究会 総会	遠隔	

3. 令和6年度の研究テーマ

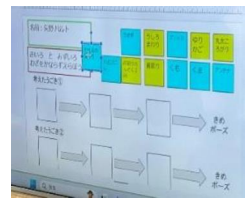
「主体的・対話的で深い学びの体育授業づくり」

児童生徒一人一人が課題に対して「問題意識」をもち、「自分自身で判断し、行動できる」授業を目指す。

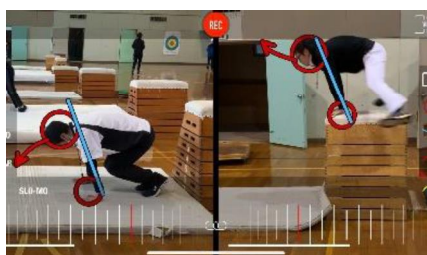
4. 令和6年度活動報告

取組1【公開研修会 9月29日(金)】

- ①公開授業 器械運動 マット運動 小学2年生
- ②道教委及び教育局における体力向上の取組について
- ③実技講習会 器械運動の仕組み



本研究会における公開研究授業者は、なるべく体育指導を得意としている教諭に依頼して研修会を開催してきました。研究協議は授業内容がどうだったかにこだわらず、自分が同様の授業を行うとしたら指導案をどのように作成していくかを議論するなど、参加者の授業力向上に重きを置いています。また、指導技能の伝達という側面も持たせ、実技講習会を同日開催しました。



今年度の講習会は、なぜ体力をつけるのかという講話から始まり、「動感」「アナログン」「学習性無力感」の解説がありました。

技能面では、マット運動と跳び箱の腕支持の一部において共通の動作があるということ全体で再確認しています。公開授業も重要ですが、実技をどのように教えるかで悩む教師は多く、複数回の実技講習会を開いて欲しいという声が年々増えています。

体力に関する講座は、北海道教育局日高教育局 義務局育指導班 主査 中尾育夫様に依頼し「道教委及び教育局における体力向上の取組」についてご説明をしていただきました。

取組2【手引き・体育科通信の配布】

- ①新体力テストの手引き ②バトンパスの考え方 ③W-up集 ④グラウンドライン引きの手引き
- ⑤体育科通信 を研究会時や要望があれば各校へ配布



体育専科教員や体育エキスパート教員の経験がある会員が作成した刊行物を、公開研究会参加者及び要望のある学校へ配布しています。手引きは、図解にして見やすく編集。体育科通信は、運動のメカニズムや授業力向上、指導技術、コラムなど幅広い分野に触れて発行しました。

【北海道学校体育研究大会札幌大会全国プレ大会への参加】

本研究会から5名参加しました。どの授業においても、児童生徒が主体的に学ぶ姿勢と、先生方の授業への熱、場の工夫は驚きの連続でした。勉強になる素晴らしい機会となりました。参加させていただき、ありがとうございました。

